



今日からの新しいシリーズでは、毎回旧約聖書の「詩篇」の一篇を読みつつ礼拝をささげましょう。

詩篇には、礼拝用に歌われたものもあれば、個人の思いを告白したものもあります。また賛美や祈りもあれば、嘆きや後悔を表現したものもあり、ある人は、「詩篇は、人の心のうちにあるあらゆる音楽を奏でている」と言いました。今日は、主をほめたたえるということについて。

“私の神 王よ 私はあなたをあがめます。
あなたの御名を 世々限りなくほめたたえます。
日ごとにあなたをほめたたえ あなたの御名を世々限りなく賛美します。” 1-2

① あなたの偉大さのゆえに

“主は大いなる方。大いに賛美されるべき方。
その偉大さは測り知ることもできません。
代は代へとあなたのみわざをほめ歌い
あなたの大能のわざを告げ知らせます。…” 3-

② あなたの真実と恵みのゆえに

“人々はあなたの豊かないつくしみの思い出をあふれるばかりに語り
あなたの義を高らかに歌います。
主は情け深く あわれみ深く 怒るのに遅く 恵みに富んでおられます。
主はすべてのものにいつくしみ深く
そのあわれみは造られたすべてのものの上にあります。…” 7-

“主はご自分のすべての道において正しく そのすべてのみわざにおいて恵み深い方。
主を呼び求める者すべて
まことをもって主を呼び求める者すべてに 主は近くあられます。” 17-

③ あなたがすべてを治められる方ですから

“あなたの王国は永遠にわたる王国。
あなたの統治は代々限りなく続きます。” 13

<話し合ってみましょう>

- ・この詩の作者ダビデは、私たちがさんびをするのは、ほめたたえられる神がさんびされるにふさわしいお方だからだと語っています。あなたは、どんな理由でさんびをしますか？ふりかえて考えてみましょう。